

# 地域課題の解決に向けて ～大学は何ができるのか～

参加費  
無料

東京大学では、社会貢献活動として多くの地域連携事業が行われています。

本シンポジウムは、現在、全学や各部署で展開している事業間の情報共有の場を設け、同様の課題を有する地域同士の連携を促進することを目的としています。



日時：2025年**1月22日**（水）  
15時00分～17時00分  
（開場14時30分）

会場：東京大学小柴ホール  
（本郷地区キャンパス内）  
＋オンライン（Zoomウェビナー）

参加方法：  
会場、オンラインともに事前申込となります（当日申込可）。  
下記二次元コードより各々お申込ください。



会場参加用



オンライン視聴用

## プログラム

### 1 開会挨拶・シンポジウム趣旨説明 津田 敦

東京大学理事・副学長／社会連携本部長

### 2 講演①



福島県

「復興支援から協働へ  
～地域とともに歩んできた13年～」

秋光 信佳

東京大学アイソトープ総合センター教授

### 3 講演②



熊本県

「熊本大学と東京大学の連携」

高橋 浩之

東京大学大学院工学系研究科附属総合研究機構教授

\*百瀬 健 熊本大学 半導体・デジタル研究教育機構 教授にも  
登壇いただきます。

### 4 講演③



愛媛県今治市

「しまなみ学び・交流の場を活用して  
学びと社会を結び直す」

坂田 一郎

東京大学大学院工学系研究科教授・地域未来社会連携研究機構長

### 5 トークセッション

講演内容のほか、自治体職員の皆様からは「地域課題の紹介」「大学とともに課題に取り組むモチベーション」「大学への期待」などをお話しいただく予定です。

モデレーター：

秋山 聡 東京大学副学長／社会連携本部副本部長

登壇者：

津田 敦 東京大学理事・副学長／社会連携本部長

秋光 信佳 東京大学アイソトープ総合センター教授

五月女 有良 福島県企画調整部長

高橋 浩之 東京大学大学院工学系研究科附属総合研究機構教授

百瀬 健 熊本大学 半導体・デジタル研究教育機構 教授

三藤 由佳 熊本県東京事務所くまもとセールス課 参事

坂田 一郎 東京大学大学院工学系研究科教授・地域未来社会連携研究機構長

富田 義勝 愛媛県今治市地域振興部長

### 6 閉会挨拶

秋山 聡 東京大学副学長／社会連携本部副本部長

問合せ先：東京大学本部社会連携推進課

e-mail：ext-info.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

主催：東京大学 社会連携本部、UTokyo Compass推進会議価値創出分科会

# 第3回 東京大学 地域連携シンポジウム

## 地域課題の解決に向けて ～大学は何ができるのか～



### ● 今回のシンポジウムでの講演内容 / 関連する協定内容

#### 福島県

##### 講演内容

2011年3月11日に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故から13年以上が経過しました。私たち東京大学アイソトープ総合センターの教職員は、放射線に関する専門家集団として、発災直後から被災地の放射線防護と除染に尽力してきました。また、2018年からは、通称「復興知事業」に採択され、複数の浜通り自治体と連携して教育研究活動を行ってきました。この活動から、「檜葉町×東京大学総合研究博物館連携ミュージアム 大地とまちのタイムライン」が誕生しています。研究の場としても浜通りに注目し、福島国際研究教育機構(F-REI)との研究も行っています。当初、我々は被災地を支援する立場で地域との関係が始まりましたが、現在は、協働パートナーとしての関係を構築しています。本シンポジウムでは、「支援から協働へ」をキーワードに、我々のこれまでの活動を紹介します。

##### 協定

#### 福島県と国立大学法人東京大学との包括連携協定 (2022年3月9日締結)

本講演にて触れる協定内容は以下のとおりです。

- ・福島イノベーション・コースト構想の推進に関すること
- ・福島の復興に関すること
- ・福島の地域活性化に関すること
- ・その他本協定の目的を達成するために必要な事項に関すること

具体的には「福島イノベーション・コースト構想の推進に関すること」は、F-REIとの研究や産業創出支援、「福島の復興に関すること」は、放射線防護と除染および復興知事業の実施、「福島の地域活性化に関すること」は、連携ミュージアム設立等の地域活性化の取り組み、について紹介します。

#### 熊本県

##### 講演内容

熊本県と東京大学の連携について、主に工学系研究科の取り組みを中心に紹介します。これまで、蒲島前熊本県知事が毎年県内の高校生を引率して工学系研究科総合研究機構を訪問し、交流を深めてきました。この交流をきっかけに、先端科学技術研究センターとの連携が始まり、現在も蒲島前知事はフェローとして運営に携わっています。TSMCが熊本県菊陽町に進出したことを契機に、熊本大学では半導体教育研究拠点の構築が進められています。これに伴い、熊本大学内に工学系ナノシステム集積センターの分室を設置し、半導体研究・教育やクリーンルーム運営を通じた連携体制を整備しています。これらの取り組みについても紹介します。

##### 協定

#### 熊本県と国立大学法人東京大学との包括連携協定 (2024年2月27日締結)

本講演にて触れる協定内容は以下のとおりです。

- ・半導体産業の振興、関連人材の育成と交流
- ・世界や地域で活躍できる中高生の育成と教員の交流

#### 愛媛県今治市

##### 講演内容

大山祇神社があり「神の島」とも呼ばれる今治市の大三島では、本学の工学系研究科・工学部と今治市、日本IBM社が締結した「しまなみ学び・交流の場」事業に関する包括連携の下、市民大学等の様々な活動が行われてきています。2024年度、この場を活用して、地域未来社会連携研究機構(FRS)と次世代サイバーインフラ連携研究機構(NGCI)とが協力し、「地域未来社会教育プログラム」を受講している学生のみなさんによるフィールドスタディを実施しました。地元の熱心なご協力で、市長や高校生との対話、地元の住民や移住者の方々との交流、造船工場の見学など盛りだくさんの学びの機会となりました。本学が目指す「学びと社会を結び直す」取組です。こうした複合的な地域連携活動の意義等について紹介します。

##### 協定

#### 「しまなみ学び・交流の場」事業に関する、今治市と東京大学大学院工学系研究科・工学部、日本アイ・ビー・エム株式会社との包括連携協定 (2023年5月29日締結)

本講演にて触れる協定内容は以下のとおりです。

- ・「しまなみテクノロジー市民大学講座」の開講及び運営
- ・ワーケーションプログラムの実施
- ・しまなみ地域の島内外の人流を作り出す活動の提案及び実証実験の実施
- ・CDE参画企業との連携、その他の地域活性化の取組の推奨

また、この協定に基づく市民大学等の多様な地域連携活動の苗床の上で、今治市のほか、日本IBM、東大工学系研究科も協力のもと、地域未来社会横断型教育プログラムのフィールド体験授業を実施しています。

<https://www.t.u-tokyo.ac.jp/topics/tp2023-06-05-001>